

突然メールで届いた退職通知、期限内に応じると割り増し手当とも。グーグルはじめデジタル業界に吹き荒れる波、解雇規制のゆるい米国から。

2月22日のゼミは、『資本論』第3巻、エンゲルスによる『『資本論』第三部への補足と補遺』を小野さんの報告で行いました。「価値法則と利潤率」の節では、ローリアとゾンバルト、そしてシュミットら批判では、まず商品交換が労働量とは別の比率での交換へは、正常状態では需要と供給、価値と価格は一致するとし、価値は思考の産物とするのに対し、歴史的な過程としている。歴史的にも価値は生産価格より先行者であり、中世の農民は正確に労働時間を交換の適切な尺度とし、それは都市工業者でも同じである。また中世の商人でも商業組合内での公正な審査で価格を共同で取り決める。それは組合内部の等しい利潤率にも見ることができる。ここでは商業資本の利潤率であるが、ここに变革を起こしたのは産業資本である。すでに中世にその萌芽が、海運業・鉱山業・繊維産業で形成されていた。これが資本主義的な剰余価値形成の最初の発端、マニュファクチュアから大工業への生産の商品の生産費を低くしていた。「取引所」の節では、1865年以來、取引所が大きな役割を担い、生産の拡大と蓄積の拡張、強大な銀行、土地財産、海外への株式投資が行われる。

討論では、エンゲルスは価値に対して生産価格を資本主義以前としているが、資本論では価値を生産様式で完結したものとして、生産価格を規定している。歴史的には価値から価格が出てくるとして、共同体内、あるいは共同体間ではどうか。抽象的労働が問題になるは資本制生産様式になってからだ。価値法則についてバビロニアを持ち出すが、エンゲルの間違いだ、単純商品生産は存在しない。結局、商品交換であれここには労働概念、抽象的労働概念が問題である。それでは商品交換の基準は何か、高級な衣服や芸術絵画に対し。

会場参加は小野さん・川口さん・松村さん・北川さん・山口さん・高田、オンライン参加は竹内さん・斎藤さん・後藤さんの9名でした。

* 3月8日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 875 2961 0443 パスコード: 275572

* 2月22日で資本論3巻まで終えました。3巻は2016年8月24日に始まり59回のゼミで終えました。第4週ゼミは古典をテキストですが、3月22日からのテキストは古典を現代の視点からと、斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』(NHK 出版新書、2023年1月、1023円)に決まりました。

***** ゼミ日程 *****

3月8日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

柄谷行人『力と交換様式』第1部第1章 交換様式Aと力 報告 斎藤さん

3月22日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第1章 商品に振り回され 報告 川口さん

4月12日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

柄谷行人『力と交換様式』第1部第2章 交換様式Bと力 報告者未定

その後 4/26, 5/10, 5/24, 6/14, 6/28, 7/12, 7/26 [アイクルの部屋]